

放射線は微量でも危ない!



●科学技術の「進歩」
がもたらした矛盾!

新・環境学

現代の科学技術批判

III 有害人工化合物/原子力

市川定男

「環境学」から「新・環境学」へ。環境問題を初めて総合的に捉えた名著『環境学』の著者が、初版から15年間の最新成果を盛り込み、21世紀の環境問題を考えるために世に問う新シリーズ! 経済効率を最優先させてきた現代の高度文明社会の落とし穴を鋭く暴く。

ISBN978-4-89434-640-6
四六並製 二八八頁 二六〇〇円

第2章 生命と共存できない原子力

1 恐るべき原子力災害

史上最悪の事故/原子炉の原理/主な原子炉の型/広範な放射能汚染/さまざまな核種が/ヨウ素剤の投与/日本にも降下した/食品のセシウム汚染/670万の要検診者/TMI事故も想定外/炉心溶融の発生/対応不能を招いた/妊婦と乳幼児の退避/情報の隠匿と混乱/過去の事故被害予測/東海JCO臨界事故/日本でも起こりうる

2 放射線は微量でも危ない

放射線と生物/放射線の種類/放射線のエネルギー/放射線量の単位/放射能強度の単位/さまざまな放射線障害/高線量の影響から判明/低線量の影響の判明/ムラサキツユクサの雄蕊毛/微量線量域での証明/他の生物や人体でも/化学変異原との相乗効果/サクラ花弁調査の開始

3 人口放射性核種の生体濃縮

浜岡原発周辺での実験/原発以外に原因なし/環境放射線量の上昇/翌年以降も有意差が/他の原発周辺でも/緊急停止との関係も/広がった包囲網/体内被曝が主因/体内被曝の重大性/モニタリングの欺瞞/推進側の必死の対応/当人抜き「否定会」/事実を曲げた『朝日』/推進側の実験/アメリカでの招待講演/早く認識できたはず/なぜ濃縮するのか

4 再処理と高レベル放射性廃棄物

プルトニウムと核拡散/プルトニウムの毒性/プルトニウム社会/高速増殖炉の危険性/プルトニウムが過剰に/汚染を拡大する再処理/急増する放射性廃棄物/海洋投棄の禁止/六ヶ所村への集中/解決のない技術/劣化ウラン弾の使用

5 マレーシアのナトリウム廃棄物

三菱のARE社/問題の発端/広がった反対運動/一回目の調査/高裁の操業停止命令/二回目の調査/操業再開の許可/原告側の立証/被告側の対応/判決の遅延/全面勝訴判決/三菱撤退とARE工場閉鎖

6 無数のヒバクシャ原発事故の恐怖

許容線量の変遷/基準運用原則の後退/BEIR報告/許容濃度の魔法/区別された原爆被爆者/遠かった援護法/原爆線量の見直し/隠されていた被爆者/ビキニ島民の再移住/風下のヒバクシャ/核実験従事兵士/ウラン採掘と先住民/激増した労働者被曝/チェルノブイリ事故で急増/核被害者世界大会/ベルリンで第二回大会/増え続ける核被害者

ご注文は FAX でお願ひいたします。FAX: 03-5272-0450

番線印

ご担当者

藤原書店 東京都新宿区早稲田鶴巻町 523 tel. 03-5272-0301 fax. 03-5272-0450 info@fujiwara-shoten.co.jp

- ()部 **新・環境学** (全3巻)
- ()部 **III 有害人工化合物/原子力**
四六並製 288頁 ISBN978-4-89434-640-6 2600円
- ()部 **I 生物の進化と適応の過程を忘れた科学技術**
200頁 ISBN978-4-89434-615-4 1800円
- ()部 **II 地球環境/第一次産業/バイオテクノロジー**
304頁 ISBN978-4-89434-627-7 2600円